

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調 査 名 重要港湾 尾道糸崎港 港湾環境整備事業に伴う業務委託（松浜地区）

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 港湾 地盤沈下

ボーリング名	Bor.No. 4	調査位置	広島県三原市糸崎八丁目地内	北緯	34° 23′ 8.8768″
発注機関	広島県東部建設事務所三原支所	調査期間	令和5年 6月 1日 ～ 令和5年 6月 6日	東経	133° 06′ 50.3794″
調査業者名		主任技師		現場代理人	
コ ン 定 者		ボーリング責任者			
孔口標高	T. P. 2.71m	角	180° 上下 90° 0°	方位	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 0°
地盤勾配		鉛直	水平0° 90° 0°	使用機種	試験機 東邦地下工機 D-1B48型 エンジン ヤンマーディーゼル NFD12型
総削孔長	17.00m	ポンプ	東邦地下工機 BG-3C型		

標尺	標高	深度	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日	標準貫入試験							試験採取	室内位置試験	削孔月日	
												深度－N値図										
(m)	(m)	(m)										N	深	100mmごとの打撃回数	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量	深	試験採取番号	試験方法		
												度	度	0	100	200	300	(m)				
1	2.46	0.25		礫	G	灰				10cm厚のコンクリートの下に直径3cm程度の砕石層が分布する。	96/05 2.14											
2				礫混じり砂	SCs-G	淡褐		rd2		マサ土からなる埋土。直径4cm以下の硬質な流紋岩の亜角礫を少量含む。砂分は細砂～粗砂を均等に含む。細粒分は少ない。深度3mの試料にプラスチック片が混入する。		3	1.15	1	1	3	300	1.09	P4-1	⊖	土粒子密度・含水比・粒度	
3									完新世			4	1.45					1.45				
4				玉石混じり砂礫	Rm-S	黒灰		rd4		粗礫・岩塊からなる捨石層。礫と岩塊は硬質な流紋岩と花崗岩からなり、最大コア長は18cmである。隙間は黒灰色の細粒分が混じる粗砂主体の砂である。深度4.5m以深は捨石層と自然地盤が混合した状態であり、基質は暗灰色の貝殻片混じりのシルト質細砂からなる。		6	2.15	1	1	2	4	2.09	P4-2	⊖		
5	-0.69	3.40				黒～淡褐						4	2.45					2.45				
6				シルト質砂	SCs	暗灰		rd3		細粒分の多い、細砂主体の粒径均一な砂。貝殻片・腐植物・木片が点在する。		3	3.15	2	2	2	6	3.45	P4-3	⊖		
7				有機質粘土	CLS-G	黒褐		rc2		含水比が高く軟らかい。試料は強い光沢を持つ。		6	3.45	130	70			3.45				
8				礫質粘土	CLS-G	暗褐灰		rc2		含水比が高く軟らかい。直径4cm以下の亜角礫を多く含む。		36	4.15	11	12	13	36	4.45	P4-4	⊖	土粒子密度・含水比・粒度	
9	-2.39	5.10							更新世	風化した崖錐性堆積物の層相を示す、半固結状の礫混じり粘土質砂。大半の礫は風化により軟質化しており、硬さを保つものは直径1cm程度の角礫である。基質は細砂主体の粘土質砂であり、深度8m付近は砂質粘土である。		13	4.45					4.45				
10				玉石混じり砂礫	GCsS	黄褐／灰		rd3		硬質な岩塊を含む風化した粘土混じり砂礫。層相は上位層と似ており、硬質な礫を多く含む点異なる。岩塊は流紋岩質溶結凝灰岩からなり、最大コア長は14cmである。砂礫は直径3cm程度の亜角礫を主体とし、深度1m付近までは軟質化した風化礫を多く含む。基質は細粒分の多い細砂～粗砂を均等に含む砂である。		10	5.15	5	5	3	13	5.45	P4-5	⊖		
11												19	6.15	3	2	5	10	6.45	P4-6	⊖	土粒子密度・含水比・粒度	
12	-4.29	7.00										3	6.45					6.45				
13	-4.79	7.50		有機質粘土	CLS-G	黒褐		rc2		含水比が高く軟らかい。試料は強い光沢を持つ。		19	7.15	1	1	1	3	7.45	P4-7	⊖	土粒子密度・含水比・粒度（沈降）・液性限界	
14	-5.19	7.90		礫質粘土	CLS-G	暗褐灰		rc2		含水比が高く軟らかい。直径4cm以下の亜角礫を多く含む。		19	7.45					7.45				
15				礫混じり粘土質砂	GCsS	暗褐灰／褐灰		rd3		風化した崖錐性堆積物の層相を示す、半固結状の礫混じり粘土質砂。大半の礫は風化により軟質化しており、硬さを保つものは直径1cm程度の角礫である。基質は細砂主体の粘土質砂であり、深度8m付近は砂質粘土である。		29	8.15	5	6	8	19	8.45	P4-8	⊖		
16									更新世	硬質な岩塊を含む風化した粘土混じり砂礫。層相は上位層と似ており、硬質な礫を多く含む点異なる。岩塊は流紋岩質溶結凝灰岩からなり、最大コア長は14cmである。砂礫は直径3cm程度の亜角礫を主体とし、深度1m付近までは軟質化した風化礫を多く含む。基質は細粒分の多い細砂～粗砂を均等に含む砂である。		29	8.45	8	9	12	29	9.09	P4-9	⊖	土粒子密度・含水比・粒度	
17	-7.09	9.80		玉石混じり砂礫	GCsS	黄褐／灰		rd3		硬質な岩塊を含む風化した粘土混じり砂礫。層相は上位層と似ており、硬質な礫を多く含む点異なる。岩塊は流紋岩質溶結凝灰岩からなり、最大コア長は14cmである。砂礫は直径3cm程度の亜角礫を主体とし、深度1m付近までは軟質化した風化礫を多く含む。基質は細粒分の多い細砂～粗砂を均等に含む砂である。		19	9.15	6	6	7	19	9.45	P4-10	⊖	土粒子密度・含水比・粒度	
18												44	10.15					10.15				
19												52	11.15	10	15	19	44	11.45	P4-11	⊖		
20	-10.09	12.80		強風化花崗岩	S	淡褐		rd4		岩石組織の明確な中粒花崗岩。風化により全体的に軟質化し、試料はマサ土状である（DL級岩盤、砂質土）		52	12.15	20	17	13	50	12.44	P4-12	⊖		
21												34	12.44					12.44				
22												52	13.15	10	12	12	34	13.45	P4-13	⊖		
23	-11.29	14.00		風化花崗岩	Rm	淡褐			後期白亜紀	N値50以上の風化花崗岩。風化により全体に褐色化・軟質化しており、試料は指で容易に崩せる程度の硬さである。ほぐした試料は砂状となる。（DL級岩盤、軟岩I）		52	13.45					13.45				
24												52	14.15	12	18	20	50	14.44	P4-14	⊖		
25												50	14.44					14.44				
26												50	15.15	13	17	20	50	15.45	P4-15	⊖		
27												60	15.45					15.45				
28	-14.29	17.00										60	16.15	15	20	15	50	16.40	P4-16	⊖		
29												75	16.40					16.40				
30												75	17.15	18	32	50	250	17.35	P4-17	⊖		
31																		17.35				